

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第42回本部会議 記録

日 時／令和3年3月26日（金）

15：30～16：04

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいまから、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第42回本部会議を開催をいたします。早速議事の方に入っております。まず、「道内の感染状況」、それから「変異株への対応状況」等につきまして、保健福祉部長から説明をお願いいたします。

### 【三瓶保健福祉部長】

まず、「道内の感染状況」等についてでございますが、資料1をご覧くださいと思います。道独自の警戒ステージの指標についてでございますが、昨日時点で、入院患者数、療養者数など、4つの指標につきまして、先週に比べ増加傾向にあり、特に札幌市内の感染状況については、予断を許さない状況でございます。道内の新規感染者の状況については、昨日現在で10万人当たり8.1人と、3月7日の集中対策期間終了以降、概ね横ばいで推移をしております。一方、札幌市では、3月24日に10万人当たり15.7人となり、道独自の警戒ステージ4相当の水準に至ったところでございます。昨日は15人は下回っておりますが、感染者の行動履歴を見ますと、様々な場面での感染が確認されておまして、また、変異株の感染確認が続くとともに、集団感染についても続発をしている状況にあります。

医療提供体制につきましては、入院患者数は3月7日の集中対策期間の終了以降は、350床前後と横ばいで推移してきましたが、重症患者につきましては、このところ増加している状況にあり、特に、札幌市内では、入院患者数、重症患者数とも、増加傾向が続いており、医療提供体制の負荷が増している状況にあることから、注視が必要だというふうに考えてございます。

そこで、今後の対策でございますが、感染しやすく、重症化しやすい可能性があると言われております変異株の感染確認が続く中、さらに警戒感を高め、基本的な感染防止策の引き続きの徹底を周知していく必要があると考えております。また、年度替わりで、人の移動や会食機会などの増加といった、感染リスクが高まる時期に備えながら、安心してワクチン接種を受けられる環境づくりを進めることが重要であります。引き続き、全道域において、飲食の場面などにおけます感染防止に向けた行動の定着を図るとともに、感染再拡大の予兆の探知と迅速な対応など、感染の再拡大防止に向けた対策を実施することとします。

札幌市は全道の人口の3分の1を占め、都市機能が集積するなど、人の往来が活発な地域でありまして、他地域へ波及する可能性が高い都市構造にあります。3月上旬から

感染拡大が継続し、様々な場面での感染が確認される中であって、変異株の感染確認が続くなどしており、医療提供体制への負荷も増加している状況にあります。昨年11月上旬の感染拡大期には、札幌市内での感染拡大から10日間程度遅れて、全道でも拡大した経過も踏まえ、今、この時点で、これ以上の札幌市内での感染拡大を防ぎ、全道の感染拡大につながらないように、札幌市を対象とした強い措置を講じる必要があると考えております。

なお、3ページ以降のデータ等につきましては、後ほど、ご参照いただきたいと思います。

続きまして、「変異株への対応状況」についてでございます。資料2をご覧くださいと思います。新型コロナウイルス変異株への対応の状況についてですが、まず、スクリーニング検査の実施状況についてですが、変異株による感染の広がりを見せており、集団感染も発生していることから、道では、原則、道衛研及び道立保健所、民間検査機関で実施しましたPCR検査で陽性と判明した全ての検体について、スクリーニング検査を行っているところであり、2月1日から3月24日までの間に564件の検査を実施し、その実施率は50.4%となっております。

なお、スクリーニング検査の実施率の向上に向け、医療機関実施分の陽性検体を提供いただけるよう、現在依頼しているほか、大学や民間検査機関等に検査の実施について働きかけてまいります。

続いて、ゲノム解析の実施状況についてですが、これまで、道衛研におきまして、50件の変異株疑い事例について、ゲノム解析を行い、国立感染症研究所により、全て英国型と確定判断されたところでございます。なお、その内訳については、北海道分14件、札幌市分35件、小樽市分1件となっております。なお、道分の疑い事例14件については、現在、道衛研の方で順次ゲノム解析を行っているところであります。

変異株につきましては、国によると、従来株に比べまして、感染性しやすい、重症化しやすい可能性があるということが懸念されておりますが、感染予防に有効な対策は、これまでと同様であることから、基本的な感染対策の実践につきまして、引き続き、感染防止に向け、積極的な啓発に努めるとともに、正しい情報を発信し、変異株のまん延防止に万全を期してまいりたいというふうに考えてございます。私からは以上でございます。

#### **【副本部長（中野副知事）】**

ただ今の説明に関連いたしまして、「札幌市の感染状況」について、本日、オブザーバー出席いただいております、札幌市の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

#### **【山口札幌市感染症担当部長】**

それでは、札幌市の感染状況についてご説明をいたします。次のスライドをお願いします。新規の感染者数であります。2月から減少傾向が続いておりましたが、3月初旬から再び増加傾向に転じておまして、感染拡大に強い警戒が必要な状態だというふうに考えてございます。感染経路が追えない方の割合も30%台で推移しておりますけれども、一定

数が発生しているところでございます。

それでは、次のスライドください。新規感染者数、濃い青の棒グラフでございますが、これに加えまして、黄色の入院患者数と、赤の折れ線の重症患者数の推移を示してございます。3月の初旬までは緩やかな減少基調にあったものが、新規感染者、それから中でも変異株の感染者の増加に伴いまして、入院患者が増加しまして、11月上旬と同程度の数となっております。また、重症患者、赤のグラフでございますが、赤の折れ線グラフの重症患者数ですが、3月11日にはゼロとなったところでございますが、再び増加しており、医療体制の逼迫も懸念されるところでございます。

それでは、次のスライドご覧ください。検査数の推移でございますが、直近の1週間の検査件数は7,802であり、1日平均で1,100件程度実施しているじょうきょうでございます。直近の陽性率でございますが、3.7%となっており、5%を下回っているところではございますが、この値は徐々に増加をしております、油断ができない状況というふうに考えております。

それでは次をご覧ください。すすきの地区での重点検査の状況でございますが、検査数は増加しており、陽性率、これは黄色の折れ線でございますが、市全体の陽性率、紺色の線を下回っている状況でございます。11月中旬と比較すると大幅な減少をしているところでございます。

それでは次、ご覧ください。年齢別の割合をお示ししました。10月には30歳代以下が75%という大きな数字でしたが、感染が急拡大した11月には60歳代以上が約30%と増え、各年代への感染の広がり、ですから色がカラフルな形になっているところございますが、一方、3月になりますと、30歳代以下の方の割合が約50%となりまして、60歳代以上が30%と、高齢の方への感染の広がりも見えている状況でございます。これは高齢者が参加する集会に関連した集団感染事例の発生もありまして、特に70歳代の高齢の方の割合が増えているところでございます。

次をご覧ください。リンクありの新規感染者について、10月は個人活動を感染経路とする割合が60%と多く、そのうち約6割が、20歳代の方であり、飲食行動が多く見られたところでございます。これに対しまして、3月につきましては、個人活動が再び増加しており、10月と異なりまして、その約半数が60歳代以上が占めておりまして、集会の参加により、高齢者への感染が広がっているというふうに考えおります。また、旅行や帰省など、市外との往来といった行動歴も見られております。

次をご覧ください。3月の感染経路につき、個人活動の行動歴を詳細に分析したものでございます。知人との交流、会話といった行動歴が約半数の55%を占めているほか、接待を伴う飲食店等に関連する行動歴が約13%、飲食店での会食が約12%、旅行や帰省といった行動歴が約7%となっております。

また、リンクなし、リンク不明の方の行動歴には、個人宅での活動や実家の訪問、それから旅行や帰省といった行動が見られておりまして、飲食の場以外での行動の際にも基本的な感染対策の徹底が重要と考えております。

次のページをご覧ください。集団感染事例につきまして、10月は接待を伴う飲食店等での発生が、これがあのブルーの所でございますが、約70%を占めていたところでございますが、市内への感染が広がっていきまして11月以降には、福祉施設や病院での発生

件数が増えていったところでございます。一番右側の3月の発生件数は少ないところではありますが、学校ですとか病院のほか、集会関連の集団感染が3件発生している状況でありまして、変異株の広がりと共に注意が必要な状況と考えてございます。

次をご覧ください。先週から検査割合を増加させております変異株検査につきましては、3月16日から22日までの1週間で新規陽性検体数292のうち約8割の231検体について、変異株PCR検査を実施しまして、85件が変異株疑いとなっているところがございます。

次をご覧ください。これまでに札幌市内で発生した変異株が確認された集団感染事例の結果をみてみますと、新規の陽性率が平均48%となっております。これまでに発生した類似の集団感染事例においては、この陽性率は25%程度だったことと比べますと、この48.5%は高い数字であり、変異株の感染力の強さがうかがえると考えてございます。

次をご覧ください。また、60歳以上の陽性者の重症度を比較、見てみたところですね、現時点では変異株が確認された陽性者は、従来株と比較いたしまして酸素投与を必要とする中等症の割合、これ黄色の部分ですが、変異株のところは、大きくなっているところがございます。今後の感染状況により傾向は変わる可能性もありますが、変異株の感染力は感性が広がるスピードも速いと言われており、感染者には高齢者も多いことからより一層の注意が必要な状況だというふうに考えてございます。

結びになりますけれども、市内の感染状況は、ただいまご説明したとおりでございますが、感染者数が増加したこと、そのうち変異株患者の占める割合が大きく、今後も拡大の恐れがあること。変異株患者は症状が重くなる方が多く、入院期間が長くなることから、入院者数の急増が懸念されるため、4月1日より札幌市内の入院受入体制を現在のフェーズ2からフェーズ3相当へ移行することについて調整を進めさせていただくこととしてございます。以上でございます。

#### 【副本部長（中野副知事）】

続きまして、「札幌市を対象とした感染拡大防止に向けた施策」等につきまして、総合政策部長から説明をお願いいたします。

#### 【倉本総合政策部長】

それでは資料4「札幌市を対象とした感染拡大防止に向けた施策について」をご覧くださいと思います。道内及び札幌市内における感染状況等については、ただいまご説明があったとおりでございますが、これまでの経験を踏まえまして、札幌市内の感染が全道に拡大する可能性が大変強いということを踏まえまして、これを何としても防ぐ必要があると考えております。特に、変異株が札幌市において多く確認されていることも勘案いたしまして、このたび、札幌市内を対象に道の警戒ステージ4相当の強い措置を講じることとしたいと考えております。

期間は明日、3月27日から4月16日までの3週間、道の警戒ステージ3相当以下をめざすことを目標に、特措法に基づく協力要請といたしまして、感染リスクを回避できない場合、札幌市内においては、不要不急の外出を控える、札幌市との不要不急の往来を控える、という2点を要請することとしたいと思っております。また、札幌市の新規感染

者数が週当たり293人以下、病床数110床以下を目安といたしまして、感染状況に応じて期間中の解除も検討することとしたいと思います。

次に資料5をご覧くださいと思います。今般の資料1「道内の感染状況等」、それから資料4「札幌市を対象とした感染拡大防止に向けた施策について」につきましては、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせをいたしております。専門家及び有識者からは、概ね「妥当である」というご意見をいただいておりますが、期間を3週間としているが、これまでの対応との一貫性を持たせるため、期間中に目標が達成された場合は、早期の終了もあり得ることを示すべき、道民のモチベーションを保つためにも必要といったご意見がございました。同様のご意見は複数の関係団体からもいただいたところでありまして、こうしたご意見を踏まえまして、先ほど申し上げました週当たりの新規感染者数及び札幌市内の病床数を目安として、感染状況に応じて期間中の解除も検討するという考え方を明記することとしたいと思います。

その他のご意見といたしましては、道民に慣れや疲れが生じていることが懸念され、最近の感染事例などを基に特に注意すべき行動をわかりやすく伝える工夫を凝らすべき、「また自粛か」と思われないように措置の必要性について丁寧に説明をお願いしたい、あるいは、最優先課題のワクチン接種のスケジュールに影響が出ないよう強い措置が必要、今が正念場なので、感染抑制のため、これまで以上に積極的なアピールが必要、などといったご意見をいただいたところでございます。

次に、関係団体、市町村からも、概ね「妥当である」というご意見でございましたけれども、「対策疲れ」「コロナ疲れ」などによる道民の感染防止に対する意識の低下を懸念、札幌市と連携の上、道民や事業者が前向きに感染防止対策に取り組めるようなメッセージの発信をお願いしたい、あるいは、変異株について、感染防止に向けて特に留意する点など、専門家の知見も踏まえてつまびらかにし、道民や事業者の不安を軽減する取組をお願いしたい、などのご意見が寄せられたところであります。こうしたご意見につきましては、今後の対策や情報発信に活かしてまいりたいと考えております。

また、「異動する行為自体はリスクが低いこと」と「移動先での過ごし方によってはリスクが高まること」を明確に分けた上で情報発信すべき、飲食店等に対する自粛要請がない一方で、公共交通に対しては多大な損失をもたらすものであり、バランスの取れた効果的な対策となるよう、再考を求めるというご意見もございました。

道といたしましては「感染リスクを回避できない場合」における「不要不急」の外出自粛を要請することと考えております。移動自体にリスクがあるということではなく、まさに外出先での様々な場面での感染リスクを回避できるか、これを慎重に考えていただき、それができない場合は控えていただくことを呼びかけるものございまして、こうした点について、道民の皆様に丁寧に情報発信をしていきたいというふうに考えております。

続きまして、資料6をご覧くださいと思います。「年度末・年度始めの普及啓発」についてでございます。3月も残すところ数日となりました。進学や転勤によりまして、札幌をはじめ全道各地、そして、全国各地からも人の移動がピークを迎える時期となり

ます。大学や短期大学の新生等に対する啓発チラシを札幌市さんと共に作成をいたしました。今後、学校の協力をいただきまして、啓発活動を進めていきたいと考えております。

また、体験された方の体験集、これを新たに今般作成をいたしました。関係機関の皆様にお知らせをいたしますとともに、道のホームページで公表をしております。新型コロナウイルス感染症に対する理解を深め、感染防止への取組や差別・偏見の防止に役立てていただければと思っております。

なお、資料には書いてございませんが、明日11時より知事と札幌市長に札幌駅にて駅頭での啓発活動の実施をお願いをしております。ご関係の各位には重ねてのご協力のほどお願いをいたします。私からの説明は以上でございます。

### 【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいま説明のありました「札幌市を対象とした感染拡大防止に向けた施策」についてでありますけれども、説明の内容のとおり当本部として決定することいたしますが、よろしいでしょうか。はい、それでは、そのように決定をさせていただきます。

次に「新しい旅のスタイル」モデル事業について、観光振興監から報告をお願いいたします。

### 【大内観光振興監】

お手元の資料7に基づいて報告をさせていただきます。新しい旅のスタイル、この取り組みですが、感染防止対策を徹底をした新しい旅のスタイルを構築いたしまして、普及、定着をするということとしまして、3つの柱としてですね、同居者（個人も可）となっている中での旅行限定、感染防止対策の徹底、それから、域内旅行に限定するという、3つの柱で構成しております。2ページですが、利用者に対しましては、黒字で示しました、これまでの取り組みに加えまして、赤で示しました「黙食・黙浴」、それから同意書を提出する、アンケートの提出をしていただきまして、それを制度の改善に生かすというものでございます。

3ページ目でございます。事業者に対しましては、「黙食・黙浴」のポスター等を掲示をする、部屋食や同居者限定テーブルでの利用を求める、それから、誓約書の提出をいただきまして、抜き打ち検査の実施をします。守られているか確認をいたしまして、遵守されていない場合には参加の取り消しもありうるという考えでございます。

次に4ページですが、以下の6つの圏域に限りまして、域内旅行に限定して展開をするという考え方でございます。

続きまして5ページでございます。今回の取り組みではあらかじめ停止条件について定めました。まず、モデル事業参加の宿泊施設において集団感染が発生した場合、当該施設を停止いたします。次に圏域内の複数の宿泊施設での集団感染が発生した場合、圏域全体を停止いたします。

次の6ページでございますが、感染状況によりまして、一つ、特定地域におけます外出や往来の自粛等の要請をする場合、もう一つはですね、まん延防止じゅてん措置の検討を

開始した場合、販売利用を停止をいたします。

次のページでございます。具体的な開始時期につきましては、4月2日から4月30日のチェックアウトまでといたしまして、販売開始は4月1日から利用開始は2日からということでございます。札幌市に対する今回の措置を踏まえまして、札幌市分の開始については、当面延期をする考えでございます。資料7については以上でございます。

この案につきまして、資料8でございますが、新しい旅のスタイルに対する主な意見ということで、有識者、専門家等のご意見を頂戴をしております。その中ではですね、一番上でございますけれども、小さい範囲から経済を動かしていかないといつまでも始まらない、4行目でございますけど、しっかりした枠組みでこれだけ慎重にやるということでは問題ないと思う、中段ですが、最近の感染状況を見ると札幌を外した方がいいと思う。それから2ページ目に行きまして、上から3つ目でございます。現在の札幌、函館の感染状況が増えている中、この事業が原因とならないよう、感染状況によっては、遅らせるのが良い、仕組みの中身は良い、ということでございます。それから1の下から3つ目ですけれども、地域内や同居者との旅行でという仕組みは良い、その下、一つ空いて、問題なのは道外から来る人や対策を理解してくれない人、制限というよりも、対策を厳しくやっていくしかないと思う、というご意見がございました。

関係団体の方からですね、上から四つ目の意見でございますけれども、宿泊業界としては、感染防止の強化など最善を尽くしていきたいので早期に事業実施願いたい、次には札幌市内でホテル旅館も大変厳しい状況にあるので、札幌市の感染状況に応じた緩和措置や、段階的に圏域の解除などをお願いしたいという意見がございました。それからこのページの一番下ですけれども、県域内に限定するとはいえ、旅行の機会を増やし、拡大を助長することにもなりかねない、次のページにいきまして、事業を企画することは到底理解できない、慎重な対応をお願いするというようなご意見も頂戴しております。その次、年末からこの3月まで、観光関係者は耐えてきた、感染者が少ない地域での小さな旅はいいですよ、というシグナルの意味で支持したい、というようなご意見を頂戴してございまして、賛成、工夫が必要、あるいは慎重にという意見、それぞれにつきましても、道といたしましては、モデルの運用状況に関する情報共有を図りながら、必要な改善に生かしてまいりたいと考えております。私からは以上でございます。

#### 【副本部長（中野副知事）】

それでは、その他、各部、各振興局からご発言ありましたら順次お願いをいたします。まず、教育長、お願いをいたします。

#### 【小玉教育長】

集中対策期間終了後、家庭内感染などにより、子どもの感染者が増加傾向にあります。これから春休みに入り、移動等が増えますことから、オンラインによる健康チェック等を行い、感染予防の徹底を図ってまいります。4月上旬には、各学校で入学式が行われますので、各学校に対しまして、国の衛生管理マニュアルを踏まえ、式全体の時間短縮や、参加者の身体的距離を確保、式場の分散、保護者等のオンライン視聴の活用などについて、指導しております。

道教委としましては、新学期を迎えるに当たり、先ほど総合政策部長からご説明のありました、新入生、転入者向けの啓発チラシのご紹介とあわせまして、改めて、衛生管理マニュアルを公立学校全教職員で確認をし、感染予防対策に万全を尽くすよう指導するとともに、これらの留意事項につきまして、私学、大学関係者とも情報共有を図ってまいります。以上です。

#### 【副本部長（中野副知事）】

その他、ご発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ではここで本部長からお願いをいたします。

#### 【本部長（知事）】

3月7日の集中対策期間の終了以降、道内各地で集団感染が多く発生をいたしました。施設側のご尽力と道民の皆様によりますご協力によって、感染の拡大を抑え、道内全体の新規感染者数については、横ばいで推移をしている状況であります。皆様のご理解とご協力で改めて感謝を申し上げます。

しかしながら、札幌市では、増加が続いております。現在、道内の新規感染者数の6割以上を占める状況になっております。さらに、札幌市内では、感染しやすい、重症化しやすい可能性があるとして指摘をされております変異株による集団感染、こちらが統発をしております。道内の変異株の事例のうち、札幌市分が8割以上を占めるという状況にありまして、この点について強い危機感を持っております。また、札幌市においては、先ほどご説明もありましたけども、医療提供体制への負荷も増加をしている状況にあります。

本道の中心都市であります札幌市の感染は、他地域へ波及する可能性が高いわけがあります。人の動きや会食の機会が増加する時期を迎える中で、札幌市内の感染拡大を抑制をし、併せて、他地域への拡大を防いでいく、そのためにも極めて重要な局面であります。皆様には、再び、大変なご負担をおかけすることになるわけですが、札幌市内を対象に、外出や往来の自粛といった強い措置を講じることといたしました。

今後、さらに札幌市内の感染が広がって、全道へ感染拡大するおそれがあるような事態となれば、ワクチンの接種、こちらにも支障が生じるおそれがあります。このこととともに、特措法に基づく「まん延防止等重点措置」、こちらを含めまして、時短等により、より強い措置、こういったものも検討を行わなければならないという状況になるわけがあります。こうした事態には至らないしなければなりません。この3週間、感染防止行動の徹底をお願い申し上げます。

変異株は感染しやすいというふうには、先ほど申し上げましたけども、言われているわけですが、これまで以上に感染拡大のスピードが、そういった意味では速くなる、そういうことが懸念をされるわけがあります。一方で、変異株への対策でございますけども、基本的な感染防止行動の徹底であるわけでありまして、従来の対策と何ら、そういった意味では変わるわけではありません。改めて、道民の皆様、札幌市民の皆様に、お一人お一人の感染防止行動の徹底、こちらをお願いいたします。



各本部員においては、札幌市との連携の強化をより一層しまして、道民の皆様、札幌市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、このたびの要請の実効性を高めて、この3週間で「道の警戒ステージ3相当以下」という目標を達成をして、皆様の生命と健康、暮らし、そういったものを守ることができるように、全力で対応に当たっていただくように指示をいたします。

また、道としても、人事異動を迎えるわけございまして、歓送迎会の自粛、引っ越し時期の分散化など、既にみなさんには指示をさせていただいておりますけども、率先して取り組んでいくこと、このことに加えまして、人事異動に伴う対策の空白、こういったものはあってはならないわけでありまして、常に迅速に対応できるように、万全の体制を構築していただくように指示をいたします。

また、観光振興監から報告がございましたけども、「新しい旅のスタイル」を構築するモデル事業、こちらを4月1日から販売、翌2日から利用開始ということで、報告があったところでございます。年度替わりで人の移動が活発化する中で、事業者と利用者双方が協力して、感染防止対策を徹底する「新しい旅行のスタイル」、こういったものを構築し、普及、定着をしていきたいというふうに考えています。今回の事業開始は、札幌市に対する措置を踏まえまして、札幌市における開始時期は遅らせる形でのスタートといたします。市町村はもとより、宿泊事業者等の関係者の皆様と連携を図りまして、「北海道の旅行は、日本最高レベルの感染防止対策をとっている」というアピールするなど、北海道観光の価値を向上させていく、そのことに向けて、事業の効果が高まるようにしっかりと取り組んでいかなければなりません。このことについても、みなさんのご協力をお願いします。私から以上です。

**【副本部長（中野副知事）】**

はい、それでは、ただいま本部長から指示のありました事項につきましては、各本部員、必要な対応を取っていただきますようお願いをいたします。

それでは以上をもちまして、第42回本部会議を終了いたします。

(了)